

CAMPUS NEWS

キャンパス
ニュース



全日本学生 フォーミュラ大会に出場

9月10～13日、静岡県の小笠山総合運動公園で第6回全日本学生フォーミュラ大会が開催された。本学からは、機械研究会やプロジェクト科目のメンバーが出場し、出場62校中、総合13位、日本自動車工業会会長賞6位、省エネ賞3位という好成績をおさめた。本大会は(社)日本自動車技術会が主催しており、学生チーム



が企画・設計・製作した小型レーシングカーを持ち寄って、マシンの設計や走行性などの車両性能、コスト審査やプレゼンテーションなど、ものづくりの総合力を競う大会だ。本学のチームが受賞した省エネ賞は、燃費が優れているチームに与えられる。また自動車工業会会長賞は、設計安全、衝突安全、軽量化努力、燃費、騒音、スポーツマンシップ等の評

点をもとにした総合得点で評価された。

本学のチーム「同志社大学フォーミュラプロジェクト」では、技術部がエンジン班、サスペンション班、フレーム班に分かれ、「速くて操作性の良い車」をコンセプトに流体解析も取り入れてマシンを製作した。また、総務部のメンバーは資料調達、備品管理、スポンサー交渉、財務管理、広報などの役割を担った。



本学では、2006年度からプロジェクト科目「F1を作ろう!」が開講されており、(株)堀場製作所の中村成男氏、藤井透理工学部教授の指導のもと、年々進化したものになっている。また製作にあたっては、他にも多くのスポンサー企業から協力を得ており、それが今回の好結果につながった。今年度の成果を活かして、来年も一層の活躍を期待したい。

(広報課)

同志社京田辺祭2008 (愛称: ADAM祭)開催!

11月1、2日の2日間、今年度で4回目を迎える同志社京田辺祭2008(愛称: ADAM祭)きょう たなべで であいふれあい めぐりあい」が開催され、秋晴れの中、約2万5千人の来場者が京田辺キャンパスを訪れた。お祭りでは、毎年恒例となっている模擬店手作り市・フリーマー

ケット、音楽ライブ、お笑いライブはもちろんのこと、今年度は「緑日テーマパーク」や「らいとあつぷかふえ」など子どもから大人まで楽しめる企画を実施した。また、今年度も「日本一エコなお祭り」というスローガンの下、リユース食器の導入や、国内産間伐材わりばしの使用など環境に配慮した取り組みを実施した。閉会式では、スタンブラリーの抽選会が行われ、多くの人々の思いに残る2日間となった。

同志社京田辺祭は、学生・教職員・一般市民が一体となって共に楽しみ、ふれあい、



交流する場を創出し、大学と地域が連携した新しいコミュニティの形成を目指してきた。今年度のテーマのように、お祭りであい、ふれあった人たちが、またいつの日かめぐりあえるような大学と地域の架け橋となるお祭りを今後も開催していきたい。

(京田辺地域連携推進室)

名古屋で関西4大学 学長フォーラム開催

10月11日、同志社大学、関西大学、関西学院大学、立命館大学による関西4大学学長フォーラム「私立大学の教育力」関西4大学からの提言」が名古屋のテレビアホールで開催された。

作家の有栖川有栖氏による基調講演「関西で学ぶ意義」豊かな学生生活を送るために」の後、4大学の卒業生を交えてのトークセッション「大学で自分の将来を描く」大学で学ぶということ」が行われた。また、パネルディスカッションでは、宅配サイトの運営会社「夢の街創造委員会」代表取締役の中村利江氏を招き、4



大学の学長が「私立大学の教育力」卒業生の質をいかにして保証するか」をテーマに討論した。

豊かな学生生活を送るために、どの大学で学んで、自分をどう成長させていくのか。受験生の参加も多く、熱心に耳を傾ける様子が見られた。また、会場内の特設スペースでは、各大学の入試担当者が個別相談に応じた。

(主催)同志社大学、関西大学、関西学院大学、立命館大学／共催読売新聞社

(広報課)

※写真は、読売新聞社の許諾を得て掲載しています。

文科科学省の 「産学官連携戦略展開事業」 に採択

このたび、本学は平成20年度文科科学省「産学官連携戦略展開事業 戦略展開プログラム」の実施機関として採択された。

産学官連携戦略展開事業は、大学等の中長期的な産学官連携戦略の展開にあたり、国が政策的観点から支援を行うもので、本学はこの支援事業のうち「知的財産活動基盤の強化」に採択された。これは、人文社会科学(人文科学、社会科学、教育、芸術等の分野)を含め、更なる知的財産活動を行う基盤の強化を必要としている大学等について、各大学等の特性、実態を考慮した効率的な運用体制の整備を図ることを目的とした支援事業である。

本学ではリエゾンオフィス、知的財産センター設立以後、学内の産学官連携体制の基本的な体制(規程、組織)を整備してきたが、人文社会系の産学官連携体制が十分整備されていなかった。今回の採択を受け本学では、産業界、官界、市民から期待される大学の社会的責任(University Social Responsibility:USR)として、産学官連携活動を全学的活動に拡大して展開し、人文社会系産学官連携に関するニーズの発掘や知

的財産管理への取り組みなどを通じ、特に人文社会系の産学官連携体制の整備と基盤強化を図っていく予定である。文科科学省からは、OBネットワークの活用や文系コーディネーターの育成などの取り組みについて評価をいただいている。また、著作権、商標にも意識を置いていることについて、地域的な特色も捉えていると評価を得ている。

従来、全国的に産学官連携活動は理系の技術開発を中心に進められ、本学においても様々な成果を得てきた。その一方で、本学には、最先端の研究を行う人文社会系学部の教員をはじめ、130年以上の歴史・伝統、長年培われた地域との関わり、大学OBとのネットワーク、京都市内の中心部といった立地条件など様々な活用すべき資源が多くある。これらの資源を活用することで、地域と企業、行政の橋渡しをするとともに、本学の社会へのプレゼンスを向上させて行きたいと考えている。

【お問い合わせ先】リエゾンオフィス
TEL: 0774-65-6223
E-mail: jt-liais@mail.doshisha.ac.jp

文科科学省「国公立大学を 通じた大学教育改革の支援」

同志社大学では、さまざまな教育改革が進行しており、毎年その取り組みが文部科学省の大学教育改革支援事業に採択されている。今年度も、前号掲載の「大学教育の国際化加速プログラム(国際協同・連携支援)」に続き、下記4つの取り組みが採択された。

プログラム名	採択テーマ
大学院 教育改革支援 プログラム	安全・安心の設計システム技術者養成課程 (工学研究科・機械工学専攻)
質の高い 大学教育推進 プログラム	相互啓発による創造的学力育成カリキュラム ～学生による評価と 相互チュータリングの試み～ (社会学部)
	政策提案能力を養う理論と実践との交流教育 ～同志社大学政策学部PBL教育と 京都府地域力再生活動との連携～ (政策学部)
	文理融合型教育による課題解決能力の育成 ～データサイエンスによる 文化事象の解明を通じて～ (文化情報学部)

(広報課)

第4回日本聴覚障害学生 高等教育支援シンポジウム 「聴覚障害学生支援に関する 実践事例」(ニテスト2008)で PEPNet-Japan賞を受賞

2008年10月26日にキャンパスプラザ京都にてPEPNet-Japan(日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク)主催第4回日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウムが開催された。同シンポジウムは、PEPNet-Japanの活動の成果を全国の高等教育機関等に向けて発信するとともに、より充実した聴覚障害学生支援方策について議論を行うものである。今回本学も協力機関としてこのシンポジウムの運営に協力した(大会長は学生支援センター西村卓所長)。

また、今回のシンポジウムのランチセッションでは、全国の大学が日頃実践している支援上の創意工夫やアイデアの斬新さを参加者が投票するコンテストが開催された。会場に

は全国20大学機関が作成したポスター・映像資料等が並び、参加者による投票の結果、本学が応募した「Challenged キャンプ」※が最も優秀な取り組みとして「PEPNet-Japan 賞(大賞)」を受賞した。

表彰式では本学を代表してキャンプ参加学生が表彰を受けた。壇上でインタビュを受けた学生からは「学生生活を支えてくれたサポートスタッフに感謝します」「このキャンプで得ることができたみんなの素敵な笑顔が、全国の大学に広まることを願っています」「キャンプに参加したのは学生ですが、キャンプを企画し、支えてくれた学生支援センターのみなさまに感謝します」など喜びのコメントが披露され、会場は拍手に包まれた。

※「Challenged キャンプ」は一人一人の障害体験を通じて各種障害への理解と自分自身の心のバリアと向き合うことにより心身とも成長することを目的としている。そこの学びを今後の社会生活に広く生かすことを目指した取り組みである。

■新任教員紹介

このたび新しい先生をお迎えしました。

①所属(学科) ②職名 ③主な担当科目



富田 健司
(とみた けんじ)

①商
②准教授
③ビジネス・トピックスI



丸山 正樹
(まるやま まさき)

①理工(数理システム)
②教授
③解析学II

■退職教員

2008年8月31日付で、次の先生が退職されました。
政策学部 講師 秋吉史夫

■司法試験結果

平成20年度 新司法試験合格者数

法科大学院名	受験者数	既修	未修	合格者数	既修	未修
東京大学	366	252	114	200	155	45
中央大学	352	276	76	196	179	17
慶應義塾大学	292	211	81	165	135	30
早稲田大学	345	26	319	130	20	110
京都大学	241	169	72	100	84	16
明治大学	264	155	109	84	65	19
一橋大学	127	93	34	78	65	13
神戸大学	128	91	37	70	54	16
同志社大学	210	147	63	59	45	14
東北大学	127	77	50	59	38	21
立命館大学	205	154	51	59	53	6

平成20年度 旧司法試験最終合格者数

大学名	合格者数
東京大学	25
京都大学	14
中央大学	13
早稲田大学	12
慶應義塾大学	11
一橋大学	6
大阪大学	6
同志社大学	5
北海道大学	4
名古屋大学	4

本学教職員の執筆図書を紹介

総合情報センター調べ(価格は税別)

エックハルト フレン語著作集
中里樹 訳 知泉書院 6000円

承認欲求
太田肇 著 東洋経済新報社 1500円

世の中がわかる経済学のはなし
経済学部教員53名 同志社大学経済学系

中世京都の軌跡
御橋俊夫 著 雄山閣 2800円

アメリカ 自由の物語(下)
肥後本男 著 他 多数執筆 岩波書店 3800円

社会の構造と変動
鶴岡孝造 著 他 多数執筆 世界思想社 2000円

労働契約法
十田道夫 著 有斐閣 1800円

逐条解説会社法
藤田節 松尾健一 伊藤清史 他 多数執筆 中央経済社 4700円

フレンアメリカの教育改革
松ヶ玲子 著 他 多数執筆 行路社 2100円

手塚治虫
竹内オサム 著 ミネルヴァ書房 2400円

手形法小切手法講義
伊藤清史 著 他 多数執筆 成文堂 1800円

日本の人事管理論
太田肇 著 中央経済社 2400円

ワークライフ・バランスと社会政策
富田信 著 他 多数執筆 法律文化社 3200円

開放系言語学への招待
松本啓子 著 他 多数執筆 慶応義塾大学出版会 2400円

写真空間2
清水稔 著 他 多数執筆 青弓社 2000円

食の講座
名和文介 著 他 多数執筆 日本生活協同組合連合会出版部 1500円

日米企業のグローバル競争戦略
太田肇 著 他 多数執筆 名古屋大学出版会 3600円

検証 格差拡大社会
田中宏樹 著 他 多数執筆 日本経済新聞出版社 1800円

国民主権と法の支配(上巻)
釜田泰介 著 他 多数執筆 成文堂 10000円

国民主権と法の支配(下巻)
釜田泰介 著 他 多数執筆 成文堂 10000円

親密な関係のダイナミクス
谷口正一 著 他 多数執筆 北大路書房 3400円

21世紀の都市像
伊多波良雄 著 他 多数執筆 古今書院 2600円

コンピニションで考える民法
石田剛 著 他 多数執筆 商事法務 28000円

言語の生得性とモジューラ性
中井信 著 田和堂 42000円

卒業生の新刊図書

磯村昭和さん(1974年文学部英文学科卒業)

「青の季節―光と影」
文芸社 10000円(税別)

志村和次郎さん(1961年法学部法律学科卒業)

「個儼不羈の事業家 新島襄と下村孝太郎
―時代を生き抜いたベンチャー魂―」
大学教育出版 18000円(税別)

前号(156号)掲載記事について

156号記事に誤りがありました。

■特集「座談会：留学生に聞く」

●学生氏名

【誤】王珏明(オウギョクミン)

←【正】王正明(ワンチェンミン)

●寮の名称

【誤】リチャードハウス

←【正】リチャーズハウス

■キャンパスニュース

●2008年度卒業式・学位授与式

3月22日(日)13時

生命医科学研究科 を追記

●本学教職員の執筆図書の紹介

【誤】新関三季代

←【正】新関三希代

【誤】東良彰

←【正】東良彰

以上、訂正してお詫びいたします。

チャンスを活かせ

理工学部情報システムデザイン学科が開設され、丸4年が過ぎた。当学科は理工学部で唯一文系受験を実施しており、多種多様な学生が在籍し、また理数系科目だけでなく社会科学系科目の履修を課している。エンジニア、特に人と関わるシステムを提案・設計開発することが求められるこれからの技術者は、いわゆる数学・物理をはじめとする理工学系科目だけではなく、人間や社会のことにも興味を持ち、かつ積極的に社会との関わりを持つてほしいと考えている。当学科の一期生はこの春、社会に出たり、大学院に進学したりと人生の新しい一歩を踏み出しており、これからの活躍を期待したい。

私は今年度から、同志社ローム記念館プロジェクトの運営委員長を拝命している。同志社ローム記念館プロジェクトでは、毎年、マルチメディアやITなどに関する様々なプロジェクトが活動を行っている。学生・生徒や教職員がプロジェクトを立ち上げたいと思えば、秋学期に応募し、実施が認められれば、翌年度に公募プロジェクト

トとしてその活動が支援される。また、自身での立ち上げは敷居が高いと思えば、企業や団体などが実施する誘致プロジェクトや、全体のプロジェクトをサポートする学生コアプロジェクトに参加することも可能である。プロジェクトは基本的に1年間であるが、積極的なプロジェクト活動を通して、IT・マルチメディアだけでなくコミュニケーションからプレゼンテーションなど様々なスキルを獲得することができ、年々、プロジェクトに参加する学生の数は増加している。同志社大学の理系学生だけでなく、文系学生や同志社女子大学の学生など、多種多様な背景の個人が集まることで、そこから新たに創造的なプロジェクトが生まれるのではないかと期待している。

また、今年度春には理工学部学生主任としてフレッシュャーズキャンプに、また夏には京田辺校地学生支援課主催の「自分発見のエコツアー『白川郷』」に参加した。夏期休暇に開催される課外プログラムには、函館キャンプ、熊本キャンプなどがあ

り、毎年多くの学生が同志社の一員としての認識を新たにしている。一方、同エコツアーは今年度からはじまった新しいプログラムであり、自己啓発・自己改革を目的とした3泊4日の合宿プログラムである。今回、自然あふれる世界遺産である合掌造りの集落を有する白川郷で、14名の学生とプログラムのすばらしさに感動するとともに、4日間インストラクターを務めていただいた西田氏（トヨタ白川郷自然学校校長）の人柄に魅せられた。参加した学生も有意義な時間と経験を得たと確信する。

同志社では、このように、正課のカリキュラムだけでなく課外プログラムでも、教員だけでなく職員が積極的に学生の自己啓発や自己改革の手助けや場の提供を行っている。このことが、同志社大学をはじめとするオール同志社の最もすばらしい点であり、高い価値の一端を担っていると考えられる。学生諸氏は、これらの機会や場を積極的に利用してほしいと切に願っている。

Masashi Okubo

大久保 雅史

理工学部情報システムデザイン学科教授

大阪市出身。大阪大学工学部卒業、同大学院工学研究科修士・博士(工学)(大阪大学)。大阪大学助手、U. C. at Berkeley 客員研究員、岡山県立大学講師、同助教授を経て、2004年から現職。専門はヒューマンインタフェース。ヒューマンインタフェース学会論文賞、IEEE Workshop on Robot and Human Interactive Communication Best Paper Award、日本機械学会設計工学・システム部門フロンティア賞などを受賞。



同志社人
訪問

小山雅子さんに聞く

インタビュー
樺 惇志さん
〔文化情報学部4年次生〕



樺 ● 小山さんが警察官を志された理由はどのようなものでしたか。

小山 ● 警察では採用されることを拝命と言うのですが、私を含めて女性23名が拝命したのは昭和53年。京都府警が女性警察官を採用するのは実に30年ぶりのことでした。戦後間もなく昭和21年に初めて女性警察官の採用があり、その後、長きに亘って採用がなくなっていたのです。就職の時期、30年ぶりの募集ということが大きく新聞に載り、それを見た母が、昔警察職員をしていたということもありまして、「受けてみたら」と言うので「それもいいかな」と笑。大学で心理学を勉強していましたので、福祉的な仕事で人と接する職業を探しており、警察官はまさに人と接する仕事ですし、少年相談などで心理学を学んだことが生かせるのではないかと思ったのです。

樺 ● 京都府警に入られてからはどんな仕事をしてこられたのですか。

小山 ● 警察学校で6カ月の教養期間を終えて、松原警察署、現在の東山署で交番勤務をしたのがスタートです。その後、本部の少年課で少年補導、教養課で警察の機関誌を作る仕事をした後、110番通報を受ける通信指令課で電話の受信をしました。そして警察学校の教官、七条警察署の交番所長をし、次にまた少年課へ。ここでは被害少年保護係といって、当時重要だと言われ始めた犯罪被害者の保護を担当しました。それから、山科警察署生活安全課の課長代理として薬物や銃器を取り扱う保安係に所属し、上鴨警察署(現・北警察署)の生活安全課



こやま 雅子さん
【1978年文学部
文化学科心理学専攻卒業】

1955年生まれ、京都市出身。78年京都府警察官拝命。松原警察署(現・東山警察署)新任配置後、本部生活安全部少年課、地域部通信指令課を経て、山科警察署、上鴨警察署(現・北警察署)、川端警察署の各署で生活安全を担当。本部の生活安全部、警務部の課長補佐などを歴任した後、2008年3月より現職。83年巡査部長、91年警部補、98年警部を経て、08年警視に昇任。

長、川端警察署の生活安全課長を務めた後、本部に戻って生活安全企画課で最初は地域安全係に。当時、京都では醍醐の小学校で子どもが殺されるという事件があり、それきっかけに地域のハード面、ソフト面の安全が叫ばれ始めた時期でした。その後はがらりと変わって警務課というところで給与の担当をした後、生活環境課という悪質商法や生活環境の問題などを扱う部署に異動になりました。そして今年3月、警視に昇任して生活安全部生活経済課ハイク犯罪対策室室長になり、現在に至ります。

樺 ● 30年ぶりに採用された女性警察官ということで、苦労なされたこともあるのではないですか。

小山 ● 私たちはもちろん初めてですが、受け入れる側も初めてのようなものでした。女性警察官も最初は交番勤務から始まるのですが、当時はまだ法律上泊まり勤務が



できませんでした。交番は24時間勤務ですから、泊まりができないと意味がありません。ですから「日勤だけの警察官なんていない」とよく言われました(笑)。そして平成

3年、地域部通信指令課に配属になったとき、男女雇用機会均等法ができてようやく泊まり勤務ができるようになったのです。

それが京都府警で女性警察官が泊まり勤務をした初めてのケースでした。巡査部長になったのも初めてでしたし、警部補、警部、今回の警視昇任も初めてということで、新聞などで取り上げていただく機会も多いのですが、正直なところ、昔はしんどいと思っただけもありましたよ(笑)。ただやはり、初めての経験をさせていただくのは光栄なことで、これが運命だとしたらしつかりとそれに向き合っていけばいい、初めてだからと肩ひじ張っていくより、自分は自分なのだから、肩の力を抜いて自分ができることを自分なりに一生懸命やれば道は開けていくはず。そう思うようになったことで、何とか

やって来れたのかな、と思います。

樗●女性警察官で良かったと思われることはありますか。

小山●少年課などで女の子を相手に話を聞いたりする時は、女性警察官の方が話しやすいとは言えますね。また、川端署の生活安全課長の時に、DV(ドメスティック・バイオレンス)法で初めて検挙した事例があったのですが、夫の暴力に苦しんでいた女性が私をととても頼ってくれました。DVの被害女性には男性に強い恐怖心を持ちますから、その意味では女性警察官で良かったということがあります。ただ、警察官の仕事は女性であることがすべていいことではありませんし、女性だからダメだというわけでもありません。ちなみに現在、京都府警全体で約450人の女性警察官がいるのですが、ほとんどすべての部署に女性警察官がいます。

樗●警察官をされていて喜びを感じるのとはどんな時ですか。

小山●やはり府民の方から「ありがとうございます」「ありがとうございます」と言っていたのが一番うれいですね。それに、今は女性警察官の後輩がたくさんいますし、警察学校の教官をしていたときの教え子もいますから、彼女たちの活躍を見るととてもうれしいです。

樗●現在、ハイテク犯罪対策室室長をされているという

ことでお聞きしたいのですが、近頃凶悪犯罪を犯した犯人が、事前にインターネット上で犯行予告を行っていたという例があります。そのような事件を未然に防ぐために、民間人が犯行予告の収集・通報サイトを立ち上げ、実際に事件の解決に貢献しているケースもあるようです。そのようなサイトをはじめ、今後民間人と連携した犯罪予防への取り組みは進んでいくのでしょうか。

小山●インターネットに限らず、犯罪予防は警察だけではできません。民間の団体、一般の方々の協力が必要です。警察でも犯罪を未然に防ぐためにさまざまな対策を考えていますが、警察がすることは事件を起こした人間を検挙して、一罰百戒的に犯罪が悪いことだと知らしめていくことが第一です。同時に、一般の団体、インターネットに関連したものではインターネットカフェやプロバイダーなどの業種の方々と協力していくことが重要です。特に犯行予告などの場合、サイトの管理者にきちんと対処をしてもらう必要があります。私たちは匿名というものは絶対にならないと言っているのですが、そのためにはサイトの管理者等に情報を提供してもらわないと隠れてしまう可能性があります。しかもインターネットの世界はあまりにも広く、警察だけでチェックすることは到底不可能です。やはり一般の方の協力は不可欠です。秋葉原の事件以降、おもしろがった模倣するケースもありますので、私たちはとにかく怪しいもの、特に緊急性や具体性のあるものを見つけたら110番通報してくださいとお願いしています。実際、そう

いった通報が増えていますが、電話でもメールでも、私たちは一つひとつ対応しています。中には、ウェブサイトの管理者が不審な書き込みを見つけ、IPアドレスなどの情報を提供してくださった例もあります。

樗●ハイテク犯罪への対策は、他府県でも行われているのでしょうか。

小山●府県によって名称や体制は異なりますが、ハイテク犯罪対策の部署は全国にあります。京都は比較的早くから取り組んでいて、平成11年に現在の対策室の前身に当たるプロジェクトチームが発足しています。いち早く取り組んだ分、他府県より少し進んでいると思います。これは自慢していると思うのですが、アドバイザーの職員一名を除き、全員が警察官として採用された捜査員ばかりなのです。他府県では一般企業でネットワークシステム関連に携わった人材が中途採用で入職し、ハイテク犯罪捜査に携わっている例が多いのですが、京都府警は全員が捜査員なので捜査能力という点では長けていると思います。インターネット社会は急激に進展しています。10年もの間、インターネット人口は7.6倍に増え、国民の69%がインターネットを使っている時代です。次々に新しい違法行為が現れてきて、放っておくと手がつけられなくなってしまう。他の犯罪でも同じなのですが、法の網の目をすり抜けるような新しい犯罪が出てくると、芽の段階ですぐに摘み取ってしまわないといけません。まさにそれが警察のやるべき大事な仕事なのです。

樗●市民の安全を守る警察官という仕事を



取つても同じです。他にも駐車違反をしている人がいるのになぜ自分だけが、とよく言われるのですが、悪質な違反を取り締まることで全体を良くしていかなければいけないのです。

櫻●小山さんが同志社大学の学生だった頃の思い出をお聞かせください。

小山●私たちが在学していたのは、まだ心理学が文化学科心理学専攻だった時代です。少人数で和気あいあいと楽しい授業だったことを覚えています。みんなで集まって勉強会をしたり、旅行したり、スキーにも行きました。とにかくアルバイトをしてお金を貯めて旅行に行くのが楽しみでした。

櫻●大学時代にこれをしておけばいいと思われようなことはありますか。

小山●警察学校の教官をしているときに、高卒と大卒の生徒には違いがあると感じました。年齢はもちろん違うのですが、それ以外に高卒の人と大卒の人とは、人間の幅のようなのものが異なるように思ったのです。勉強だけではなく、サークル活動や学部の仲間同士のつき合いを含めて、大学で学ぶという経験が人間を大きくするのです。だから勉強も遊びも旅行も、大学という場で色々なことを経験することが大事だと思います。友達と北海道を20泊21日で旅行したこともありま

すよ。電車を乗り継いで、ユースホステルに泊まつて……。そういった経験は学生時代にしかできませんからね。

櫻●心理学を学ばれて、現在のお仕事で役に立っていることはありますか。

小山●心理学は人間を見る学問ですから、人を見る目が少し違うかなというところがあります。視点の多さと言えはいいのでしょうか。そういった点では心理学を学んでいて良かったと思います。

櫻●最後に、私たち学生がハイテク犯罪に巻き込まれないようにするには、どのようなことに注意すればいいのでしょうか。

小山●まずは、よく言われているようにセキュリティをしっかりすることです。自分の身は自分で守るのが第一ですから、そのためしっかりと対策しておくべきです。インターネットになるとどうしてもバーチャルな世界に入り込んでしまつて、自分のことを現実から切り離れた仮想の存在のように誤解してしまいがちです。実社会で弱い存在、友達もいなくて孤独な人がインターネットの世界で自己主張し、自己顕示欲を満足させるために犯罪に走つてしまうということがよくあります。被害者も同じで、被害にあっているのにそれがわからない。バーチャルな世界であつても現実の社会と同じなのだというのを忘れないようにしてほしいですね。

櫻●私も大学では毎日のようにパソコンを使つて勉強しています。インターネットも欠かせないものですから、今後は十分注意していきたいと思います。本日はお忙しい中ありがとうございました。

されるうえで、信条とされているようなことはありますか。

小山●やはり府民の生活を守ることが第一です。私たちの仕事は自己満足ではいけません。自分たちの仕事を府民の皆さまに認めていただかないと意味がありませんし、そうすることによって府民が安心して生活できるようにならないといけないのです。サイバー犯罪の取り締りに関しても、生活には直接関係ないと思われるかもしれませんが、安全安心なインターネット社会を支えるという意味で大事なことです。法に反することを違法だと知らしめられるのは、警察にしかできませんから。それは例えば、駐車違反一つを

INTERVIEWER

けんき
櫻 惇志さん
文化情報学部4年次生

現在はメディア情報学研究室で、構造化文書からの重要部分抽出に関する研究に従事。卒業後は大学院に進学し、検索エンジンの検索アルゴリズムとその実用化に関する研究に携わる予定。将来は「自分の知識や技術を活かし、達成感が得られる仕事がしたい」という。



前向きに取り組んでいくことの大切さを痛感

実は小山さんは、学部は違いますが父と同期生でした。小山さんのように人の上に立って仕事をしていくには、先見性などさまざまな資質が備わっていないとできません。しかも女性警察官として多くのハードルを乗り越えてこられて、今も変わらず前向きに頑張っておられることに感銘を受けました。フィールドは違いますが、私も自己満足ではなく人の役に立つ仕事をしていきたいと思います。

このシリーズは、毎号さまざまな分野で活躍する卒業生を訪ね、仕事に何を求め、仕事を通して何を考えてきたかを取材しています。級友の方々にとっては良き近況報告、学生諸君には将来のキャリア・プランと学生生活の現実を考える機会になれば幸いです。

自らの文化を評価する価値観を育て、 日本人としての アイデンティティを採すお手伝いを。



のかを教えてください。格好の材料だと思います。現代の日本人には、自らの文化である日本美術などに對し、海外やメディアで評価されたものに對して観覧が集中する傾向があります。ブランド志向が、この世界にも強く出ています。評価する感覚、ものの見方自体を外国や市場動向に委ねてしまっているのはとても悲しいことです。自分たちのものを自分たちでわかるという、価値観を育てることのお役に立ちたいと常々考えています。

の京都画壇を卒論のテーマにしていた私に、「江戸時代の絵画の専門家を探している」と誘いがあり、博物館の嘱託職員となったのが始まりです。当時は大学院に進み、それから資格を取得しようと考えていましたので、急いで残っていた単位を取りました。

在学中、講義の合間を利用して、相国寺へ行つてのんびり読書したり昼寝をしたり、御所をぶらぶら散歩したりと、私にとっては今出川校地の周辺二帯がキャンパスのようなものでした。せつかく京都にいるのですから、学生時代に時間をもつと有効利用し、刺激や感動を味わってほしいと思います。また京都には散歩が楽しめる町で、私もよく授業が終わった後、今出川校地から御所を抜けて京阪三条まで歩いたりしていました。その途中で風景や店など色々な発見があります。京都に住んでいる方でも気づかないところはたくさんありますので、私のような地方出身者にとってはなおさらです。ですので、もう京都の近くからは離れられませんね。

今の仕事はまず展覧会の開催です。大津市は、比叡山延暦寺や石山寺など鍾々たる大寺がいくつも存在する土地柄です。その豊かな大津近江の文化財や歴史文化を物語る貴重で興味深い資料を紹介しています。また、埋もれている文化財の調査研究も行います。過去の知られていない文化的な遺産を発掘して、過去の素晴らしい文化を発信していくのです。さらに、各種の講座や現地見学会などによる普及活動も重要な仕事です。普段仕事をしていると日本人として、地域住民としてのアイデンティティ探しをお手伝いしているように感じます。文化や歴史は、自分が何ものなのか、何を大事にすべきな

術史を学べると知り、日本美術なら京都、ということで同志社大学を受験したのです。学生時代は、同志社ワーキングクラスという、京都市教育委員会の委託を受けて子どもたちとキャンプなどをするボランティアのサークルと、書道部に所属していました。展覧会を観に行ったり美術関係の本を買い集めたりしてはいましたが、資格取得はともかく、現実に学芸員になれるとは考えてはいませんでした。きっかけは卒業の前年、文化財調査のアルバイトで、大学OBの学芸員の調査補助をしたことです。文化財にふれることが刺激的で、嬉々として調査に取り組む姿が先輩の印象に残ったのか、ちょうど18世紀

P R O F I L E



横谷 賢一郎さん
【1993年文学部文化学科
美学及芸術学専攻卒業】
大津市歴史博物館 学芸員

出身は埼玉県。博物館に7人在籍する学芸員の中で、絵画を専門に担当。大津市に住んで10年余り。日々さまざまな場所で出会う文化財、アンティーク作品などを携帯電話のカメラで撮影、保存している。中には自宅のベランダから撮った琵琶湖の朝焼けの写真も。「琵琶湖の見える土地が本当に気に入っています」とはにかんだ笑顔を見せる。今後はさらに地域との関わりを深め、「地元のもの知り博士のような存在になれば」と言う。

自分のために一番いい学部を選び、 自分の一番したいことが できる会社で働く。

3年次の夏から1年間、チェコの大学に交換留学し、帰国した4年次の秋から就職活動を開始した私は、就職フェアのブースで偶然今の会社を見つけました。「チェコ語を話せますか」とチェコ語で書いた看板に興味を持ち話を伺うと、現地法人立ち上げ要員として、チェコの事情に詳しい人材を探しているということだったのです。翌日電話があり、すぐ面



接していただくことになり、そのまま内定をいただきました。入社日に呼ばれ「チェコ行の飛行機の手配を手配してくれ」と言われたほどですから、本当即戦力として期待されていたのです。日本とチェコを数週間おきに往復する生活を2年ほど続けました。現地では事務所の物件を見つけないところから、インターネットの回線を引き、人材確保まで本場に1からの立ち上げでしたので何でもやりました。しかし、留学時代の友人が多くいて、また仕事を通じて人間関係も広がることで、苦にならずとても楽しむことができました。

2007年の初めまで、本社の営業部海外チームに所属しながらチェコに出張していました。その後別の営業チームに移り、東京支社で仕事をするようになりました。そして、英語で営業ができる人材がほしいという依頼があり、今年2月に現在勤務する取引先メーカーに1年間出向することになったのです。所属の部署では、部品を運ぶ際に用いる搬送用保護フィルムなど、さまざまなフィルムを扱って

います。私は主に海外へ販売する際のデリバリーを担当していますが、商社である日信商事に戻ることを見据え、積極的に客先の会社に出かけるよう心がけています。今後はもっと営業という仕事を通じて海外に出て行ければと思います。チェコへ留学中にさまざまな国から来た人と寮で共同生活を送っていた経験もあり、どこへ行ってもすぐに溶け込め

P R O F I L E

松中 歩さん

【2005年神学部卒業】

日信商事株式会社
東京支社営業部 副主任
（現在、出向先の化成品メーカーで
機能性フィルム部門営業部に所属）



父の仕事の関係で3歳から8歳までアメリカで暮らした。文学部英文学科にも合格したが、文化や宗教をしっかりと理解し、外国人とのコミュニケーションに活かしたいと考えて神学部を選択。留学先にチェコを選んだのは、好きなゴシック建築が戦争で破壊されずに残っていること、ヨーロッパの中央部にあって各国を旅するのに都合が良かったことが理由だと言う。自分の目で見ないと気が済まない性格なので「休暇のたびに海外へ向かう。入社以来インドネシア、ペルー、ロシアを訪れた。

る自信はありますし、会社でも「辺境の地ならお前を行かせる」と言われているくらいですから（笑）。

在学中は最初から海外留学を目標にしていたので、TOEFLの得点を上げるために英語の勉強に没頭していました。神学部の授業も、ゴスペルを歌ったり、自分の好きな絵を見ながら講義が行われたりしたので、学校へ行くのがおもしろくて仕方ありませんでした。自分にとって一番いい学部に進めたと思っています。

就職にあたっては、大手企業を目指す方が多いと思いますが、私は焦らず自分のペースで自分に合う会社を探しました。そうすることによって自分のしたいことがしっかりと見極められましたし、大企業では私が経験したようなことは絶対できなかったはずで、与えられた業務が思い描く仕事に合致すれば、これ以上幸せなことはないと思います。やりたいこととできることの距離が近いということが、仕事をすすめる上で一番素晴らしいことなのではないでしょうか。

C E M E N T

第19回同志社京田辺クリスマス燭火讃美礼拝

クリスマスはキリストの誕生を記念し、すべての人びとが愛と信頼によって結ばれる未来を待ち望む祝祭です。キリストの希望を象徴するキャンドルライトの光のもと、共にクリスマスの礼拝を捧げましょう。皆様のご来場をお待ちしております。

【日時】12月13日(土) 開場 16:00

【開演】16:30 (18:00終了予定)

※入場無料

【会場】京田辺校地

同志社新島記念講堂(女子大学構内)

【お問い合わせ先】京田辺校地キリスト教文化センター

TEL:0774-65-7370

同志社クリスマスキャンドルライトサービス

キャンドルの光のもと、皆さんでひとつになって、イエス・キリストの誕生をお祝いしましょう。

【日時】12月20日(土)開場17:30 / 開式18:00

※入場無料(来聴歓迎)

【会場】今出川キャンパス同志社栄光館
(女子大学・女子中高構内)

【主催】同志社クリスマスキャンドルライトサービス実行委員会
<http://cls.jounin.jp/>

【後援】同志社中学・高校・女子中高・国際中高・香里中高宗教部
同志社大学キリスト教文化センター・同志社女子大学宗教部

【お問い合わせ先】同志社女子大学 宗教部

TEL:075-251-4141

第4回 同志社クリスマスチャリティーコンサート in寒梅館

本企画は、同志社に関わるさまざまな方に参加していただくこと、障害のある方たちへの理解を深め、手をつなぎ、ともに歩むことを目的としています。このコンセプトにご賛同いただけるゲスト出演者および、公募の参加者、ご来場のお客様、スタッフとで、コンサートを開催し、音楽の楽しさ・素晴らしさを共有していきます。

【日時】12月25日(木)開演18:00

【会場】寒梅館ハーディーホール

【料金】500円

出演:石上真由子(ヴァイオリン・同志社高校)

小西早哉佳(ピアノ・同志社大学)ほか

※本公演の収益は、共同作業所など障がい者の施設などに寄付します。

【主催・お問い合わせ】

同志社クリスマスチャリティーコンサート実行委員会

同志社大学今出川校地学生支援課(寒梅館1階南側)

TEL:075-251-3270 FAX:075-251-3099

E-mail:ji-gakse@mail.doshisha.ac.jp

第44回 全同志社メサイア演奏会

キリストの降誕・受難・復活を讃えるヘンデルの大曲「メサイア」は、キリスト教の精神を徳育の基本に据えた本学の学風の中で、長年にわたり学生、教職員、卒業生、また地域の人々に愛されてきました。聖夜に響く歌声のもと、素敵なクリスマスをお過ごしください。

【日時】12月24日(水)開演18:00 / 開場17:00

(当日16:30より座席券交換)

【会場】京都コンサートホール大ホール

(地下鉄烏丸線「北山」駅下車1番出口 南へ徒歩3分)

【料金】S席2,000円 / A席1,000円 (全席当日指定)

指揮:飯守泰次郎

合唱:同志社メサイアコア・メサイアシンガーズ・同志社グリークラブ

オーケストラ:同志社交響楽団

主催:全同志社メサイア演奏会実行委員会

【お問い合わせ先】全同志社メサイア演奏会実行委員会

TEL:080-3864-2412



京町家を拠点にした異世代協同プロジェクト

季節のイベント参加者募集

「6月には水無月(京菓子)を食べる…」、というような今は途絶えかけている季節や毎月の生活上の習慣について学び、大人や子どもたちと共に実践していきます。

【会場】京都市上京区寺町通今出川下ル「でまち家」

【時間】10:00 ~ 12:00 (時間に変更になる場合があります)

【対象】小学生~大人15名

【料金】無料

1月6日(火)書き初め

新年の決意を筆に託し、心新たな一年をスタートさせましょう。2月28日(土)、3月14日(土)にも楽しいイベントを計画中です。お楽しみに!

井戸端会議参加者募集

「学生(中高生も含む)」「大人」とが膝をつき合わせながら、時事問題や様々な考え方があり得る身近な問題について、一定のルールと方式の中で議論を行います。

【開催日】毎月1回(日程未定)

【時間】19:00 ~ 21:00

【対象】大学生若干名

学生スタッフ募集中!

子どもたちと遊んだり、地域の人と季節行事を楽しんだり、町家を拠点に異世代交流をしています。お気軽にお問い合わせください。

【お申し込み・お問い合わせ先】

今出川校地学生支援課「でまち家」TEL&FAX:075-211-5176

MAIL:ji-machi@mail.doshisha.ac.jp

第5回同志社大学New Island Contest2008開催

同志社大学New Island Contestは今年で5回目の開催を迎えるビジネスプランコンテストです。

予選を勝ち抜いたチームが個性豊かなビジネスプランを発表しますので、ぜひ、学生たちのプレゼンテーションを聞きに来てください。

【日時】12月20日(土)13:00 ~

【場所】今出川校地 尋真館Z20番教室

【主催】同志社大学リエゾンオフィス、
同志社ベンチャートレイン

【協賛】(株)南都銀行、(株)池田銀行、
同志社校友会大阪支部産官学部会(LCC)

【お申し込み・お問い合わせ先】

リエゾンオフィス TEL:0774-65-6223

Hardience(ハーディー友の会)メンバー募集中!

今出川校地学生支援課では、寒梅館のイベントをきっかけとして本学および本学学生の活動に関心を持っていただくため、私たちとともに催しを盛り上げていただける方を募集しています。お申し込みは、今出川校地学生支援課窓口にて、随時受け付け中です。

【対象】一般・他学生(本学学生・教職員は対象外とさせていただきます)

【会費】無料

【特典】寒梅館イベント情報の郵送、案内メール配信、

映画招待券やコンサート入場券のプレゼント・

入場料割引、学生団体による公演・

お芝居等へのご招待、寒梅館レストランでの割引etc.

【お問い合わせ先】今出川校地学生支援課 TEL.075-251-3270



障がい学生支援制度サポートスタッフ大募集!

同じキャンパスで学ぶ、障がい学生(challenged)のサポートスタッフを募集しています。初めての方でもできることはたくさんありますので、ぜひスタッフに登録してパソコン通訳、ノートテイク・ビデオ字幕付け・車椅子介助などのスタッフとして活動してください! 各種講習会も開催していますので、興味のある方は学生支援課までぜひご連絡ください。

謝礼:880円/時間

支援活動の内容

聴覚障害: ノートテイク、パソコン通訳、手話通訳、

ビデオ字幕付け、ビデオ文字起こしなど

視覚障害: 講義資料・試験問題の点訳、電子データ化、

拡大コピー、対面朗読、代筆、代読、ガイドヘルプなど

肢体不自由: 代筆、車椅子介助、トイレ介助、食事介助など

【お申し込み・お問い合わせ先】

京田辺校地学生支援課 障がい学生支援室

TEL:0774-65-7411

E-mail:jt-care@mail.doshisha.ac.jp

今出川校地学生支援課 障がい学生支援室

TEL:075-251-5273

E-mail:ji-care@mail.doshisha.ac.jp



WOT(ワット)="What's on Thursdays!"

「木曜日には何かがある!」を合言葉に、開講期間中の毎週木曜日、映画上映を中心に多彩なイベントを開催します。

【会場】寒梅館ハーディーホール

【料金】本学学生・教職員対象に招待券配布(共着順)

●12月4日(木)サイラス・チェスナット・トリオ&ジャッキー・ライアン
クリスマスコンサート17:45開場/18:30開演

料金:当日2,000円(全席指定)

主催:京都新聞社

●12月11日(木)《人権月間》(詳細未定)

主催:上京区役所

●12月18日(木)新作試写会 要整理券(詳細未定)

主催:京都新聞社

企画: 京都新聞トマト倶楽部

【お問い合わせ先】今出川校地学生支援課TEL.075-251-3270

※内容は都合により変更となる場合があります。

※本年度のWOTは12月で終了です。次年度は来年4月から開始予定です。



クローバーシアター

開講期間中の毎週火曜日、寒梅館のミニシアター・クローバーホールでは、映画史に残る名作の上映を中心に、様々なイベントを開催します。

【会 場】寒梅館クローバーホール(地階)

【料 金】入場無料

《歴史の授業4 ~Hiroshima》

●12月2日(火)ライブ・古館徹夫「Hiroshima mon amour」

●12月9日(火)ライブフォニック

(無声映画に新たな音を付けた生演奏上映)・

「ノスフェラトゥ」演奏:鈴木治行

●12月16日(火)映画上映「佐々木育野上映会」

【お問い合わせ先】今出川校地学生支援課TEL.075-251-3270

※詳細は決定次第、チラシ、大学HP、学内掲示板にて発表します。

※内容は都合により変更となる場合があります。詳細はお問い合わせください。

※本年度のクローバーシアターは12月で終了です。

次年度は来年4月から開始予定です。

観に行こう聴きに行こう♪ 学生団体12月~3月のイベントスケジュール

【寒梅館ハーディーホール】

●12月12日(金)ピアノ研究会『定期コンサート』

(時間未定)入場無料

●12月27日(土)応援団『アトムフェスティバル2008』

(時間未定)入場無料

●2月28日(土)ピアノ研究会『卒業コンサート』

(時間未定)入場無料

【寒梅館クローバーホール】

●3月7日(土)ギタークラブ『フェアウェルコンサート』

(時間未定)入場無料

【京田辺校地一ハローホール】

●12月6日(土)とんがりぼうし「1回生コンサート」時間未定

●12月12日(金)The Amplugged「ライブ」12:40 ~

●12月13日(土)The Amplugged「ライブ」12:40 ~

●12月20日(土)FAC「アコースティックライブ」

【学外】

●12月13日(土)同志社グリークラブ『第104回同志社グリークラブ定期演奏会』
17:30 (16:30)S券2,000円(座席指定券) / A券1,000円(16:00から座席券交換)
京都コンサートホール

(地下鉄烏丸線「北山」駅下車1番出口 南へ徒歩3分)

●12月13日(土)応援団吹奏楽部『第39回定期演奏会』

18:00 (17:30)入場無料

八幡市文化センター

(京阪「八幡市」駅下車、京阪バス「八幡市役所」下車すぐ)

●1月30日(金)~2月4日(水)写真同好会『写真同好会05年入学生 卒展』
(時間未定)入場無料

ギャラリーTerra

(地下鉄東西線「京都市役所前」駅下車11番出口より北へ徒歩3分)

My Purpose

挑戦する人



写真提供:京都新聞社

大分国体ボクシング成年男子ミドル級優勝

～諦めない強い思いが、創部以来初の全国タイトルに結実した～

ボクシングを始めたのは大阪朝鮮高級学校の1年生からです。公式戦初出場は2年生の秋でしたが、高校生活で選抜大会とインターハイで優勝することができました。遅咲きというのか、試合をするたびに強くなっていく自分を実感できました。練習から帰っても夜にまたロードワークに出るなど、厳しい練習環境の中にいたことで、自然に強くなれた気がします。

同志社大学への進学は、高校の監督の勧めもありましたが、大学の河村監督のものの凄まじい情熱を感じ、この人のもとで強くなりたいと思い、決めました。僕は二戦一戦納得できる試合をして、結果的に優勝することができればそれがベストだと思っています。全国大会ではこのブロックに入っても強敵揃いで、国体でも強豪選手が顔を揃えたブロックに入っていました。2戦目の相手は優勝候補で、関係者の間ではその試合が事実上の決勝戦と言われていました。ところが第1ラウンドでダウン、しかも反則を2つ取られて、いきなり崖っぷちに追い込まれました。しかし、半ば諦めてコーナーに戻ると、監督の目はまったく諦めてなんかいませんでした。監督をはじめ、いつも僕を支え応援してくれる家族や仲間のためにも、このまま負けるわけにはいかない。そう思った瞬間、闘志が湧き上がるのを感じました。試合の記憶がないほど必死で戦った結果は、第3ラウンドで2回ダウンを奪い、レフェリーストップでの大逆

転勝利でした。国体優勝につながるこの一勝は、色々な意味で大きなものだったと思います。

同志社大学ボクシング部は、大学からボクシングを始める人が多いのですが、彼らの情熱と努力にはかなわないと思うこともあり、経験者の僕も学ぶことが非常にたくさんあります。試行錯誤しながら、どうすれば強くなれるか、自分たちで考え実践していくのが同志社大学のボクシングです。僕はボクシングに対する考え方を大学で学びましたし、ボクサーとしても1人の人間としても成長させてくれたこのチームを本当に誇りに思っています。勝った時の喜びは何ものにも代えられませんが、サポートして下さるたくさんの方たちのためにも、僕が諦めるわけにはいかないと強く感じています。

Profile



ハラ チュンナム
朴 忠南さん
【商学部4年次生】